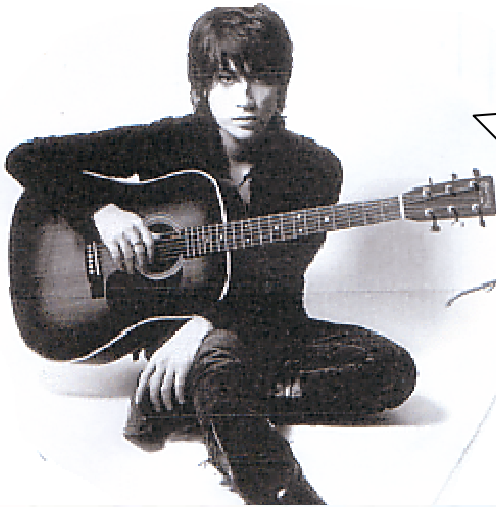


おおぞら

人権教育だより NO2
平成23年1月17日
発行 人権教育部

心のコンサート大野靖之さん



コンサートで特に印象的だったことは、大野さんご自身の夢を叶えるまでを語りながら「夢は叶うもの。夢は口にした瞬間から叶い始めるんだよ。」と。話されたことです。そして、子どもたちの夢を聞きながら「好きだという気持ちをいつまでも大切にしていれば夢はきっと叶えられるよ。君の夢は絶対に叶う。」と、話されていました。子どもたちのキラキラと輝いた笑顔あふれる素晴らしいコンサートでした。子どもたちの心にきっと素敵なメッセージが届けられたことと思います。



**夢をあきらめず
追いつけよう！**

「やっくんと呼んでくださいーい。」と、気さくで軽妙なトークからコンサートが始まりました。音楽好きだった大野さんが歌手になる夢をかなえるまでのいきさつ。乳がんで亡くなられたお母様のこと。陳腐な、あるいは深刻になってしまいがちなこれらのお話も歌の力とユーモアあふれる語り口のお陰で子どもたちの心にすうっと入っていったようです。

上から目線で人としての道を説くのではなく、客席に下りて文字通り子どもと同じ目線で「夢を言葉に出して語ろう」「急いで大人にならなくていい」そう語り、母への愛を歌う大野さんの姿に私たち大人は、ともしれば子どもたちに対して「そんなの無理よ」と、夢を奪ってはいないか。大人になることを急がせてはいないか。ちゃんと言葉に出して「愛している」と、伝えているだろうか。そんなことを反省させられました。

みんな自由なスタイルでコンサートが始まりました。時々笑いを取りながら子どもたちの中に入るような感じで夢を聞いて、「必ず叶うよ」と言って握手する姿に優しさと力強さを感じました。子どもたちが一生懸命練習したというジュブナイル〜夢の旅人の歌。大野さんの声と子どもたちの声が溶け合っ
て素敵なハーモニーでした。詞の一節「右手に希望を。左手に夢を握り締めて生まれてきた」を聴いたとき、忘れていた何かを思い出しました。大人になっても夢を持っていき
たいと改めて思いました。



両手を広げ入場してきた大野さん。スタンドマイクを整えながらざわっと子どもたちに一言。「なあに」場内が一気に和んだ。

「ぼくが子どもの頃苦手だったのは、勉強。特に算数」と言うと「えー」と子ども達。「体育も苦手」「えー」でも「音楽と図工は大好き」と話す。中学の時「尾崎豊のアイラブユー」を聴いてシンガーソングライターになろうと決めた。中2で初めて作曲した「屋根の上」という短い曲を友達が褒めてくれた。ほめられて図にのって曲を作って、また褒められて図に乗って曲を作りたくなってまた披露しての繰り返しで今まで作った曲は、600曲にもなったこと。高三の時乳がん
で母親を失くす。母親の思い出を語ってくれた時、また、母を想って作った曲をピアノで弾き語り
で歌ってくれた時、私たちの心は、母への感謝の思いでいっぱいになりました。

「夢は必ず叶うよ。笑顔を絶やさず夢をもって生きていってください」と、子どもたち一人ひとりの心に勇気を与えてくださった素敵なコンサートでした。



先日行われた大野さんの「心のコンサート」は歌とトークの大変楽しい講演会でした。大野さんのお話の中で一番印象付けられたのは「夢は口にした瞬間叶い始める。・・・伝えたい想いがそこにある。」という言葉でした。大人になるにつれ現実を目の辺りにして夢や希望という想いから遠ざかってしまうような気がします。楽しいトークの中ではもちろん、ご自分で作られたという歌の歌詞から「自分の想いを伝える大切さ」を改めて教えていただきました。